

令和4年1月12日 議会改革特別委員会 議事録
9時58分 開会

○出席委員 (8人)

委員長 網谷 芳孝

副委員長 西村 一啓

委員 藤川 和弘、原田 孝徳、小中真樹雄、小田上尚典、北地 範久、
日域 究

議長 賀屋 幸治

○欠席委員 なし

○網谷委員長 皆さん、おはようございます。時間が早いのですが、明けましておめでとうございます。よろしくお願いいたします。

それでは、定数に達しておりますので、これより議会改革特別委員会を開会させていただきます。

今回、16名の議員の皆さんが提出期限に提出していただきまして本当にありがとうございます。つきましては、今日は皆さんじっくり熟読していただいておりますので、それぞれの方に、感想なり意見なりを言っていただけたらと思います。

早速ではございますが、よろしくお願いいたします。こちらからいきましょうかね。ベテランの日域委員からお願いします。

日域委員。

○日域委員 あれですね、去年出した自分の意見を言うんですね。

○網谷委員長 自分の意見でも、全体の意見も含めて、自分の意見ももちろんですかね。

○日域委員 申し訳ないんですけど、私、他人のやつはまだ見てないです。

○網谷委員長 それじゃあ自分の意見を言ってください。

○日域委員 要は定数削減には私別に反対するものでないし、それは選挙がないのもおかしいなななと思います。ただ、議会の責任かと言われると、違う気がして、例えば市民の間で意見があるとかですよね。あれじゃあ選挙が機能しないとかですよね。例えば選挙管理委員会も含めてですよ、もっと外部からの意見もあってしかるべきだと思うんですけども、議会だけがですね、自らが何か招いたものであるかのように議論するのは、スタートラインが違う気がしてならないんですけども、少なくともいいと言われてたら、私はそれに賛成したいと思いますけどね。

○網谷委員長 ありがとうございます。少なくというのは削減という意味ですか。

○日域委員 まあ削減で、どうするかといったときにですよ、現状維持というよりは削減かなと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

それでは、小中委員、お願いします。

○小中委員 私は2回ほど全意見を読ませていただきましたが、私ははっきり言って、皆さ

ん政治経済で学んだと思われませんが、地方自治は民主主義の学校だということで、無投票というのがどういうものかというのを理解されてない方がいて、私ははっきり言ってびっくりしたと。別にほかの市町でも無投票やから別にかまへんやないかと。そんなことはないでしょうと。これを、記名で出して、市民の前に出したときに、笑われるちゆうことを考えたことがない人なんじゃないかなと私は思います。無投票でどこが悪いやと開き直ったような意見には、私はもう情けなくて、涙が出る思いがしました。

本当、だから、要するに、もちろん自分の議席は大切でしょうが、国会議員でも10増10減を3増3減にせえとか、天下の衆議院議長が言ってるぐらいやから、いかにレベルが低い連中が集まってるかちゆうことは言えるんですけどもね。自分の議席も大切でしょうが、何ちゆうんですかね、前回無投票で、次も無投票ということは、1回も、要するに、市民もどのぐらい投票するかどうかはともかくとして、信任を受けんで、2回連続で無投票になったら市民がどう思うか。別に新聞がどう書こうとそれは勝手だけでも、ほかの市町でも思いますね。だから、前回無投票なのに何の対策も講じなかったと。それで次に無投票になったら、もうはっきり言うて、笑い物にしかありませんよ。

いろいろ何か書いてはりますけど、私に言わせれば、何か取ってつけたような弥縫策ばかりで、給料増やす、報酬増やす。報酬を決めるのは審議会なんですよ。すぐ、この1年とか何とかでできるかどうか。年金なんていうのは、議長会か何かで決めたわけだし、厚生年金やったら、フルタイムで働いてる人たちが、会社が半分、自分が半分出してるんだから、年金で。議員ね、実働日数がどのぐらいかちゆうかね、その中で、税金から半分出すなんて理解得られるわけないでしょう。そんな、何ていうか、実現不可能なことを。

それで、慎重にやれっていう、審議をしろっていうの、慎重に審議をしろっていうんやったら、何で無投票になった次の年の、すぐその年の議会改革からやらなかったかという話なんだよな。それを、議員定数に触れるのが嫌やから引き延ばしたとしか私には思えない。そうじゃないかもしれないけど、私にはそうとしか思えない。ということで、言うたところで、私はしょせん1人で言ってるだけなので、多勢に無勢で、皆さんが、いや、絶対定数は減らしたくない、自分の議席は守りたいんやったら、それはそれで結構ですけども、私は相当な違和感。

で、もし次にアンケートを取るんだったら、ぜひ記名にさせていただきたいと。記名にすることによって、自分が言ったことなり、自分の主張に対する責任が生じますので。だから、自分の意見が正しいと思うんやったら、正々堂々と記名でやればいいと私は思います。これが私の感想です。

○網谷委員長 ありがとうございます。あくまで民主主義ですから。

○小中委員 民主主義は分かっていますから、だから、別にこれは個人的な意見だと言ってますし、別に、だから、議員定数削減にならんかったら、それはそれでしょうがないわけですよ。その民主主義というのが、委員長が言っはる民主主義ってどんな民主主義なの、私よく分からないですけど。

○網谷委員長 ですからね、こういう会議の中で、一個人の小中委員が言われるのは確実に確かでございますから、委員の意見ですからね。ただ、自分の意見が100%というには。

○小中委員 いや、だから、100%正しいと私言ってませんから。だから、私はこう思うと言ってるわけで、それを、委員長が正しいと言ってるという、私が言ってるのが正しいなんて私一言も言ってませんよ。私はこう思うということを書いてるんで。だから、それじゃなかったら、ほんなら、意見言うなら、言うんやったら別に私は黙ってますよ。

○網谷委員長 はい、分かりました。

○小中委員 民主主義、民主主義って、何が民主主義か本当分かってはるんですか。

○網谷委員長 小中委員、どう言うていいんですかね、主張の仕方がね、もう少し冷静にしていたきたいというのが私の意図なんですよ。

○小中委員 だから、要するに小さい声でとか、そういうので言うのであれば分かりますけど、いきなり民主主義を持ってこられると。

○網谷委員長 それは一つの民主主義の範囲の中ですから。1人が、確かに小中委員の個人の意見は分かりますがね。

○小中委員 分かりましたから、もう次へ進めてください。

○網谷委員長 ありがとうございます。

次の人、藤川委員、お願いします。

○藤川委員 お願いします。全体を見させていただきました。意見がまだ決まってない方のほうが多いのかなという思いがありました。議員定数の在り方はある程度、言葉違うかもしれないませんが、白黒はっきりしている答えが多い中でも、やっぱりまだ決まられてない答えも見受けられました。

で、打開策ですよ。これじゃあと、いいなと思うのがやっぱり皆さんないのかなというイメージを持ちながら読ませていただきました。この打開策がない限りは、やっぱり議員定数の話になってくるのかなと。私の思いは、やっぱりまず選挙をするための打開策がやっぱりメインになるのかなと。その他の意見にも数点意見がありましたので、そこにも注目していただければなという思いです。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

次、正副を後にして、議長も後にしまして、原田委員、お願いします。

原田委員。

○原田委員 私も読ませていただいたんですけども、定数削減というふうに言われても、明確に言われている方、意外と少ないなと思いました。現行でよいという方もいらっしゃるようですので、こういうところをまたこれから議論していかなくてはいけないのかなと思います。

決して16名で、現行でいいという方が、自分の議席がとかいうことではなくて、以前に委員の方の中の意見もあったと思うんですけど、やっぱり議員の数を減らすという、定数を削減するということは、例えば執行部とのいろいろやり取りとか、そういうところでの力関係とか、そういうものもあるから、現行がいいとはそのときは言わなかったと思うんですけど、ある程度の数は必要だというふうにおっしゃってた意見を思い出したんですが、そういう意見もあると思いますので、決して自分たちの身を守るためだけの、定数の、そ

のままにするというようなことだけでもないのかなという感想を持ちました。

取りあえず以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

次、北地委員、お願いします。

北地委員。

○北地委員 私は、定数問題についてこれから審議していくということなので、皆さんの意見をしっかり聞きながら考えていきたいとは思いますが、私なりに全員の16名の意見をまとめてみたんですけども、これはあくまで個人的主観の範囲であるので、何とも言えないところがあるんですけども、因果関係については、ありが3名、なしが9名というようなところで、その中間的なところは4名ということで、打開策についても、定数減のほうがいいのが3名かな。そのあと、ほかに打開策、いろんな面でありますけども、打開策については、法に基づくようなものもあれば、いろんなことがあって、これは多岐にわたっているんで、なかなか難しい面があるかないうところもありますけども、これもこれから議論していくところかなと思っております。

それから、定数の在り方については、減らすのが3名ですね。現状維持が5名ということで、残りの方は明確には言っておられませんけども、原田委員が言われるように、減が3名と少なかったのが意外でしたけども、減すのが3名、現状維持が5名というのが、そういうところが明確に出てきたんですけども、あとの方はどちらとも、これから話していいと。

その他の意見もいろいろあるんですけども、この幅広い意見が出まして、なかなか今後の協議は難しいのかなと。かなり時間かかりそうだなというような感想。

○網谷委員長 北地委員、途中ですみません。今の北地委員が説明されとるの、これがアップされておりますので、分かりますかね、皆さん。今の何名が減とか。タブレットのほうにアップされております。

○北地委員 すみません、これあくまで個人的なあれで作っておりますので、私はここがポイントじゃない、いろいろあろうとは思いますが、この辺は御理解ください。アップされるとは思ってなかったのです。

○網谷委員長 北地委員、今、説明されておるので、その表を見ながら聞いていただいたらと思います。

○北地委員 今説明したのは、この表に基づいて説明させていただいたんですけど、中身についても3行程度で、ポイントだけというつもりでまとめてみたんですけども、中にはここがポイントじゃないんだよということもあろうかと思ったり、個人的な資料として見てください。あとはお許し願いたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

○網谷委員長 ありがとうございます。あくまで後から説明しようか思ったんですがね、表を見ながら説明されておりますので、そのように皆さんも表を見ながら聞いたほうがよろしいんじゃないかと思って説明させていただきました。これも後から詳しく皆さんが見てみたいなと思ったら、説明していただいたらと思います。

次に、小田上委員、お願いします。

小田上委員。

○小田上委員　そうですね、個人的には、増やすか、現状か、減らすかというのは、個人的には今、確固たるものがないんですけど、これを見てて思ったのが、議員ってやっぱり特別な仕事なのかな、どうなんだろうなという。やっぱり理解してもらえてないというか、自分が議員になろうと思ったときに思い出したら、何でそんな仕事をやろうと思うんやと言われましたし、このアンケートの中見ていったときに、若年層というか、若い人の立候補とか、そういうところももう少し考えてほしいかな、触れてほしいかなというところもあたりはしました。

あとは、無投票というところを受けて、この改革で定数の話が今年本格的に始まりますけど、今回無投票というところを受けて、定数がもし変化するというのであれば、その一つ裁判という判例みたいなものができるわけですね。無投票を受けて大竹市はこういう結果、結論を出しましたと。なので、じゃあ次回無投票があったときに、前回こういうことをしてますよと。それはこういう理由でやっていますという理由づけをしっかりとしていく。増やす、減らす、維持も含めて、何で増やすのか、何で減らすのかとかってところのしっかり理由づけができるような話合いになればいいなと。この中見るだけだと、その理由づけというのがなかなか難しいなと思ったので、そのあたりを深くできたらいいというのが個人的な感想です。

○網谷委員長　ありがとうございます。

それでは、西村委員、お願いします。

西村副委員長。

○西村委員　私は、今日の朝刊にも突然、地方新聞のほうで出ておりますが、昨年の11月に、今年の9月に向かって我々が選ばれた委員として結論を出そうというのをテーマをして、まだ審議が今日で2回目なんです。それで、新聞のほうにもあるように、今回無投票になったということと、定数減という問題は、私自身は市民の声があまり大きくなってないというように感じております。

特に定数減については、まだまだ慎重にするべきだというのは、新聞記事を例に出しちゃあれなんですけど、1999年から5期20年にわたって先輩議員がいろいろ審議されてきました。その経験者も今の現状の議員の中におってなんですから、彼らの意見をもう一回聞いて、無投票だからすぐ定数減に結びつけるということになしに、他の市町の人口割の議員の定数と比較して大竹市がどうなんだろうかという、まだまだお互い審議する立場で今回のアンケートにも答えさせていただきました。

だから、減らさなきゃいけないとか、あるいは、現状維持にせなきゃいけないという早急な結論でなしに、それに至るまではまだまだ皆さんで審議して、委員長にもお願いしたいのは、月に2回も3回もこういう委員会を開いて、やっぱり議会の姿勢を市民に示していかないと、何も言われん中で、議員定数を審議しました、何をしました、今日の新聞記事のようなことになれば、市民がその方向を皆信じる、もっともっと議員の姿勢を示すか、それで、もう一つ、私自身が思うのは、無投票になったのと議会云々は関係ないです。たまたま立候補者がいなかった。これが無投票につながった。そういうことを考えれば、まだまだ審

議する必要があるのではないかと思います。

それで、審議の中で、議会と、あるいは無投票と、そういうものの結論いいですか、それぞれの委員の皆さんの意見があると思いますので、それらをもっともっと審議した中で、今年の9月に結論を出そうという、昨年の11月に決めた以上は、やはりそれに向かってまだまだ審議するべきではないかと。委員長が言われるように、皆さんのアンケートにも出て、どうじゃこうじゃ言うよりは、まだまだ委員長をはじめとして審議を進めるべきと思います。

以上であります。

○網谷委員長 ありがとうございます。

それでは、私のほうから。今回の16名の委員の皆さんのアンケートでございますが、ざっくりと言って、小中委員の言われましたような削減の方向性と、現状維持、また、審議もまだまだ必要といういろんな意見を含めまして、まあざっくりとまだまだ五分五分ぐらいの審議ぐらいに私は思っております。

そういうことを含めまして、これからも、今、副委員長言いましたように、もう少し深掘りをしたような審議、協議も必要ではないかというような感じでおりますので、皆さんもこれからいろんなふうな意見を頂きまして、先ほど申しましたように、9月までには結論を出して、12月の定例会にははっきりとした方向性を決めたいということでございますので、どうかよろしく願いいたします。

あまりすっきりした答えではないんですが、先ほどどなたかが言われたこともございますので、このようなものかなというふうな想像はしておりましたので、そんなところでございます。

最後に、議長、何かありますか。

議長。

○賀屋議長 大変お疲れさまでございます。16名のアンケート出てまいりまして、じっくり読ませていただきましたけども、やっぱりそれぞれの議員の皆さんの立場と、出てこられた環境あるいは背景、それぞれ考え方も違うということもあって、当然、意見が交錯して、分かれているというのは理解もできるんですけども、今回このアンケートを取るに当たって、この議会改革特別委員会の大きくテーマとしての議員定数の在り方、議員の成り手不足をどういうふうに解消していくかということをやテーマとして考えていくということでございますので、皆さんがじっくりこのことについて向き合ってもらいたいと思っております。

このアンケートの結果で言えば、皆さんも御承知のように、それぞれ意見がばらばらでございますので、これをどう集約をしていくかと。今からですね。どういうふうにしてすり合わせをしていくかということは、大変時間もかかるし、その間いろいろな意見が出てくるかと思うんですけども、最終的にこの委員会だけで決定するわけになかなかこれいけない問題ではないかなというふうに感じました。できれば早い時期に議員全員協議会で自由討議をすることによって、皆さんの生の声をぶつけ合って、その中ですり合わせが少しでもできるものがあればいいんじゃないかなと。

これは決して削減を前提にこれを取り組むわけではありませんので、結果として削減になるかも分かりませんし、現状維持になるかも分かりませんし、その辺はその過程が大事だというふうに思っています。それはどういう結果になろうとも、市民に対して、その結論を、説明責任がありますので、こういう議論をしてこういう結果になったのだということは、議員の皆さんが一人一人がしっかり認識をされて、説明ができるということが大事ではないかというふうに思いますので、どこかから頭ごなしに決められたということではなしに、やっぱり合議制で、皆さんの意見を尊重しながら、皆さんで決めたということが基本でございますので、そこをしっかりと皆さんで、実際に16人が意見を戦わせて話を進めていくということが大事ではないかなというふうに思います。そういうことを踏まえて、今からの取組を委員長にお願いをしたらいいのではないかなというふうに思いました。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。今、皆さんの意見が、大体ではございますが。

日域委員、どうぞ。

○日域委員 今の議長のお話ですけども、定数削減ありきではないと。まあそうかもしれませんが。じゃあ何かがありきでないと、この会は維持できませんから、この前無投票になったことは事実ですから、それを何とかしようと。そこはありきですよ。それが、定数削減だけじゃないよって決めたものじゃないですよというのはそうですよね。何らかのことをしないといけないと思いますし、同時に、前から思うんですけども、我々の責任じゃないですよ。だから、どこかの誰かが我々議会に対して、おまえら決めろやっというて、喉元にあいくちを突きつけてやれって言う人がいればいいんですけども、いないんですよ。まああそこに1人、あそこに1人座ってますけども、ああいう人はいるけど、例えば町の自治会連合会はですよ、あんな議会いけるかいやと。選挙からせえやっというなら別ですけども、私が一番残念なのは、そういうことがないですよ。選挙できやんだら、選挙ならなんだら、議会ではまずいだろうと。じゃあわしらが候補者出そうとか、逆に定数減そうとか、何らかの、何とかせえやという声を、ほとんど聞こえてこない中で、何か我々だけがこうやってやってること自体が、少々、私、正直言って寂しい気がします。だから、でも、でもですよ、ありきはあれですよ。選挙が実行できるような体制にするには何かアイデアはないですかということではいいですよ。ありがとうございます。

○網谷委員長 ありがとうございます。これは確認いう意味でね、今回の令和元年に新しく委員会が発足したわけですが、その発足したときに関しましては、正式に声明が出ておるわけでございます。1に、議会改革に関して議長が必要と認める事項を協議すると。それで、第2に、議員の成り手不足解消に関する事項と。これが一番メインなんですよね。今回の特別委員会に関しまして。その関連事項として、大竹市議会にとってどのような改革、改善が必要かということなんでございまして、その前委員会、2年間行ったわけですが、その中で、1に、議長主導のSNS発信、委員会のネット中継、それから議員討議の制度導入と、それと決算委員会等の意見の議会提案ということが決められて、一応実行されております。そうしたことで、今回のこの議題の中で、メインは議員の成り手不足

解消ということになるんですよね。無投票ももちろんその関連性ではあるんですがね。大変難しい問題ではございます。それを踏まえて、皆さんも協議していただきたいということです。

日域委員、はい、どうぞ。

○日域委員 皆さんで発言があればいいなと思うんですけど、いろんなことを思い出してみると、議員の成り手不足ということ自体もですよ、もちろんたくさんいればですよ、必ず選挙がありますけどね。前回の、よくマスコミの記事的に言えばですよ、予定者の説明会ってありますよね。あれで何人来るかというのが一つの目星になるじゃないですか。それで、それが済んだ日にですよ、無投票かっていう記事が新聞に出たりしますよね。

前にも言いましたけど、私の同級生がそのことを言ってきたやつがいましたから、おまえ出えやって、そして結果的に出ましたけど、今回我々の、2年半前の選挙を思い出してみたら、あのときは説明会に来た人間が定数超えてましたよね。代わりの方がいたりですよ、来ないけど、物すごい関心ありましたからね、私、あのときに。選挙があるかないかじゃなくて、前も言いましたけど、変な人間が議会に入ってきたら困ると思って、無投票でそんなことになったら困るじゃないですか。選挙になったら多分大丈夫なんですよ。だけど、選挙がなかったら、もう無条件ですからね。最後の1人はすごく私気を遣いました。選挙にしたいくて。それで、でも、そこに来たけども、いや、書類は取りに来たけど、そこでいなかったとか、あの人は代理ですとか、あったんですよ。今回は特に、立候補の日にですよ、あれ私嫌なんですけども、いつ来るかってすごく選挙管理委員会が電話してくるんですよ。8時前に来るかっていう。8時前に来るのが分かるとしたら、8時半とか、前に来るのが分かるとしたら、そこで抽せん準備をすとかあるんですよ。椅子の数数えるとか。そのときにですよ、これは選挙管理委員会のミスだと思いますが、誰がいつ来るか、表にして机に置いてるんですよ。見えるんですよ。1人が15時とか、名前がありましたからね。その人だけ来なかったわけです。

それは個人の事情がいろいろあるんでしょうけども、そのことを見たときにですよ、通常、本当に無投票になる場合はですよ、最初から無投票という雰囲気があって、それで説明会のときも、やっぱりそうね、誰もおらんねっていつて、1か月後の選挙ですけど、やっぱり無投票ねって、そういうケースが無投票の場合は多いんだと思いますが、今回若干そうじゃなかったんで、次また無投票だったら、弁明のしようがなくなるころはありますけども、もうね。私は定数削減するのが、反対はしませんよ。しませんけども、何でも選挙に出ましようって言わないんですかね。選挙管理委員会が防災無線どころか、ヘリコプター使って投票に行きましようってやってるんですよ。何で投票ばかり言うんやって、おまえらって。公正な選挙を位置づけにするのであればですよ、やっぱり選択肢というか、候補者が一定数いないとまずいじゃないですか。選挙管理委員長呼びつけて、おまえ何とか言えやって私が言ってやりたいですよ。選挙管理委員会というのは物すごく無責任な団体と私思います。公職選挙法も私読みましたけど、不十分ですけどね。でも、やっぱり選挙が大事なのであれば、それだけ選ばれた議員の人というのは最後の手続であって、その前段階はもう皆さんで認識してほしいなという気は正直します。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。今の発言は、市民の候補者の方が何らかの調整をしたという意味になるんですか。そうじゃない。

○日域委員 いや、そうじゃなく、調整をしたんじゃないで、出ようか迷ったのはいるじゃないですか。そういう人もいるだろうなということです。それは、何ていうのかな、やっぱり選挙出ると、いろんな背景がありますから、ちゅうちょする人もいるでしょうしね。出ると思った人が出なかったり、いろんなケース毎回ありますよね。だから、ただ、調整することもね、悪いわけじゃないですよ。例えば私の経験で言うとね、財産区ってあるじゃないですか。あるとき選挙になったんですよ。それまで財産区なんて知らなかったんですけども、突然安っぽいポスターがまちに貼られたわけですよ。あれ何なんって聞いたら、財産区の選挙なんよと。今回珍しく調整利かんかって選挙になったんよと。別にそれ公職選挙法違反じゃないですから。そこでお金が動いたら違反ですでも、調整するのは自由ですからね。だから、調整イコール悪ではないからあれですけども、調整をしたのはないと思います。私は選挙をしてほしいと思って奔走しましたけど。

○網谷委員長 はい、どうも。ほかの委員の皆さん、まだ言いたいことありますか。あれば。小中委員。

○小中委員 小さなことで、このアンケートの中に定数削減をすると現職のほうが有利になるというようなことを書いておられる方がいるんですが、必ずしもそうではない。これは、例えば昨年12月に行われた柳井市議会議員選挙、定数2削減して、現職1人落ちて、新任1人落ちたんです。まあ嫌々ながら定数削減したんでしょうが、江田島市議選でも同じようなことは起こってるわけで、現職が必ずしも優位とは言えないわけで、はっきり言って、私が言いたいのは、成り手不足解消って、みんな成り手不足解消、誰でも出てきて、それなりの一定の要件を満たした人が出てくれないと、それは困るわけで、要するに選挙になればそれでいいかという、必ずしもそうでもないところもあるんです。選挙になるということが第一義かも分からないですけどね。そのために供託金というのがあるわけですよ。それでも出る人もいるかもしれませんが、例えばそのために、例えば和木町議選なんかは今までだと供託金なんかなかったんですよ。今度15万円になったんですよ。市議の半分ね。だから、そういうのが当然あるわけです。成り手不足解消云々もいいんですけど、だから、はっきり言って、成り手不足解消よりも、市民がなってほしい人がなってくれないと困る。逆に言えば、選挙をする意味というのは、日域議員が言われたように、こんなの議員になってもうたら困るといふ人を、いわゆる排除するという効用もあるということも認識しておく必要はあると思います。

○網谷委員長 どうもありがとうございます。ほかに意見があれば。お二方、ほかの方、あれば発言が釣り合うんですが。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、発言ができないのは、これは今、何の場なのかが分からないというところ、突然意見を言うところが始まったというのが一番のポイントではなからうかと思えます。

せっかく手を挙げて指名してもらったので、そうですね。何か若い人に限定して、現役世代に限定して考えてみたときにどうなんだろうと。定数減れば自分が立候補してたかという、怪しいかなと。これよりも報酬が少なければ出てたか。怪しいなど。いろいろ考えるところはあります。別に若者だけに選挙に出てほしいわけじゃないとは思うんです。全体に出てほしいところなんで、若者だけばかり言ってもしょうがないんですけど、ただ、会社員から議員になるとか、どうしても議員という仕事の性質上、なかなか会社がよしとしてくれないところもある。じゃあ議員一本でいくのか、自営業で、ほかに生計を立てながらやるのかとか、いろいろあるんでしょうけど、議員って、自分たち議員が今、多分議員はみんな自分たち特別な、何でしょうね、上流階級の仕事をしてるとは思ってないと思うんですね。ただ、責任ある仕事をしてるという自覚は皆さんお持ちだと思うんですけど、それを何となくひっくるめて、市民の方は特別な仕事だと思ってるんだと思うんですね。なので、何ですかね、そこの実際に議員をやっている人と市民の方の認識の差というのが無投票につながったのかなというふうに考えてますし、何をすることも、議員に立候補したら、ある意味変な人ですから、その変わった人というふうに見られるのが嫌なのかなと。ごめんなさい、まとまらない発言ですけど。そう思ってますので、増やすべきか、増やすは分からない。定数を触るべきかどうかすらびんときてない。ただ、減りますよとなったときに、新人の立候補の可能性が、僕ら同年代だったらお勧めはしない。ただそれだけです。

○**網谷委員長** ありがとうございます。漠然と全体の意見を私が質問するから難しいんかも分かりません。この前のアンケートの項目がその他を入れて4項目ありましたよね。それに向けて一つ一つを小さく区切って皆さんの発言がいただけたらと思いますので、まず、第1項目の議員定数問題と前回の市議会議員選挙との無投票との因果関係ですよ。それだけに限って発言があれば、感想でも何でもよろしいですが。無投票と定数との因果関係ですか。話が同じような感じになろうかとは思いますがね。

小田上委員。

○**小田上委員** 無投票と議員の定数ですね。直接関係はないと思います。先ほど日域委員も言われました。説明会に行ったときに、前回の。選挙になるなど単純に思いました。なので、後援会の人たちにも選挙になりますよと、頑張りましょうという話もしたりはしたんで、蓋を開けてみたら、蓋を開ける前からそんな雰囲気はありましたが、何となくそういううわさも流れてましたけど、16名に対して16名までが立候補したというだけで、特にこの16名だから、15名だから、18名だからとか、特定の数字は関係ないのかなとは思ってます。

○**網谷委員長** あまり因果関係がないというような感じに聞き取れたんですが、ほかに。

小中委員。

○**小中委員** 結果としては因果関係はあるんじゃないかなと。書いたとおりに思いますよね。だから、現職で引退するのが何人かというのが多分焦点になったと思うんですけども、だから、4人引退して、4人が立候補したんだけども、その現職の4人のうち1人はまだ最後まで決めかねて、立候補するかどうかというところだったということだと思っ

けども、まあだから、結果としては、因果関係というか、あったと言わざるを得ないということじゃないかと思いますが、私は因果関係は今さら言ってもしょうがないんで、やっぱり主はどうして無投票を打開していくかということと、成り手不足というのは本当に有効な具体策があるかないかということが焦点になると私は思いますけどね。

○網谷委員長 具体策ということになると、小中委員の先ほどの議論になったわけです。そういうことになるんですね。

○小中委員 いや、だから、要するに、この中で成り手不足って言う以上は、それを解消するための即効的な具体策を出す必要がある。だから、定数削減をしないのであれば、即効性のある具体策があるかどうか、それを探り出さないと、それはもうどうしようもないけども、それで現状という結果になるというのも、それはそれで仕方がない、委員長が常々おっしゃる民主主義ですから、私も言ってますように、多勢に無勢というか、衆寡敵せずですからね。それはそれでいいんですけど、だから、一番根本的な問題は何かというと、具体策があるかないか。だから、ないならないなりに、こうしたら少なくともいいんじゃないかと。一番問題なのは、要するに何も策を打ち出せずに次回無投票になったときに、非常に悲惨なことになるということだけですね。まあそういうことです。

○網谷委員長 ありがとうございます。ほかにこの第1項目に対しての意見なり主張なりありましたら。

原田委員。

○原田委員 これを言ってしまうと無記名にした意味がないような気もするんですけど、私も特に無記名でなくて、記名だってもよかったほうなのでいいんですが、前回の委員会的时候でもお話ししたと思うんですけど、無投票になった一つの、いろいろ理由はあったと思うんですが、企業議員がずっと今までいたと思うんですが、その方もいっちゃらなくなったり、言ったら、まあ一般枠というんですかね、そういった言い方はおかしいかも分かりませんが、そういう方以外の枠が増えたというものと、それから、大願寺裁判の関係なんかで、もしかしたらお辞めになられた方もいっちゃったかなと。もしくは、前回だと、1期やられて、本来ならそのまま現職で2期、3期、落選しなければされる方が多いと思うんですが、そうじゃない方もいっちゃったりとか、いろんな、何ですかね、一つのこれが無投票の要因だとかいうんじゃなくて、いろんなものが重なって、先ほどお話もあったように、説明会では、17名だったかな、ということで、選挙ありますよっていう話だったし、その方が最終的に辞退されて無投票になったわけですけども、ですから、無投票になるべくしてなったということではないような気もするので、まあいろんな要因が重なって無投票になったのかなという気がします。だからといって、次、そのまま定数を変えずに様子を見ましょうということではないんですけど、そういういろんなことが起こって無投票になったのかなという気がします。私は定数は削減するべきだという意見なんですが、その辺は議論の必要はあるかも分かりませんが、そこはそこで、この議論でとどめといて、先に進んでもいいのかなという気がします。

以上です。

○網谷委員長 原田委員、先に進んでもいいのかなというのはどういう。

原田委員。

○原田委員 この因果関係とか、この部分のところの議論はそんなに深く議論しなくて、じゃあ打開策どうするとかというふうな次の項目に移ってもいいのかなという意見です。

○網谷委員長 ありがとうございます。次に進んでもいいのではないかという意見なんですがね。とはいっても、またほかに意見がある方もおられるかも分かりませんので、なければ次に、よろしいですか。

無投票を回避するための打開策、これは2番目の項目ですが、こちらのほうの、まああまり変わらんところもあろうかと思いますが、あれば発言していただければと。若干具体論が出てきてもええのじゃないかな、気もするんですが。

小田上委員。

○小田上委員 打開策、申し訳ないです。一番最初に手を挙げておいて、具体案を持ってないというあれなんですけど、まあ何ですかね、どうしても自分の経験しか話ができないもので、議員の仕事、面白そうだなと思ったので、立候補しました。やってみたいなと思わせてくれた周りの先輩方もおりましたし、傍聴に来て、この程度ならできるかなと思うこともあったし、いやいや、ここはこうしたほうがいいんじゃないかと思うところもあったし、何ですか、いざ来てみると雲の上の存在じゃないということがよく分かった。自分でも、もちろん努力はしないとイケないんですけど、努力すれば、そこには仕事できるのかなって思ったのが一番のポイントだったので、そういうところをどう市民に理解してもらうか、そこがもう一番だと思うんですね。具体的な数字云々よりも、僕は何でじゃあ大竹市の市議会議員に立候補したかという、そこだったので、何かそこがもっと伝わればいいなと思ってます。

○網谷委員長 ありがとうございます。なかなか、最初はね、全然分かりませんのでね。内容は。大体のシステムは分かっても、本当の実というですか、そういうところは難しいところがございますので、まあそんなところはみんな不安があられると思いますがね。まあそれは正直なところでございますね。ありがとうございました。

ほかの委員の方、打開策で何かございますかね。無投票を回避する打開策。

日域委員。

○日域委員 あのね、たしか公職選挙法に定数と立候補者が同じだったら投票しないって決めてあるんです。だから、あれがイケないんだと思いますが、例えばですよ。定数をどうするっていうのがありますが、まともに考えたらね、打開策ってほとんどないわけですよ。だから、その点了解して私の話を聞いてほしいんですけども、例えば入札がありますよね。入札の予定価格があるんですけども、予定価格をどう扱うかというのはそれぞれいろんなやり方があるんですけども、入札終わった後で予定価格を公表するという手がありますよね。だから、それを見習えばですよ、選挙済んだ後で定数を発表するんです。例えばね、別のことを言いますよ。長距離走がありますよ、マラソン。どうしても皆さん牽制して、多分スピードが上がらないわけですよ。何するかっていったら、競輪じゃないけども、ペースメーカーがいるわけです。

だから、必ずペースメーカーみたいなやつが、どうやって出すかって難しいんですけど

も、選挙になるように、堂々とか、裏からか分かりませんが、要するに選挙するためには定数以上の候補者が要るわけですね。その辺を、例えば意地でもね、民間団体があつてですよ、選挙をする会というのがあつてですよ、必ず立候補するわけですね。それで、定数、選挙になればね、まあやめてもええけども、意地でもですよ、何が何でもね、そんな立派な人間じゃないかもしれんけども、選挙をするんだと、そういう団体があると、必ず立候補者立てれば選挙になりますよね。

まあ何かのかなり強引なことをしないと、今ね、日本平和過ぎるんですよ。何か日本社会がどんどん、何ていうかな、萎縮するというか、何やってもいまいちじゃないですか。でも、それにあらがってですよ、我こそはという人がいない社会になってしまいかけてますよね。その一断面なんですよ。大竹市議会の選挙もね。昔だったらもういろんな人がね、ばかたれ、わしがやるわいやつてあつたんですけどね。今の連中っていないんかなって残念ですけどもね。そういう人を発掘したいなという気は正直しますけど、打開策ってね、今私が言ったことはですよ、公職選挙法とかで禁止してあれば別ですけども、禁止してないのであればやってもいいなと考えたりもしています。

以上です。

○網谷委員長 どうもありがとうございました。ほかの方で。

議長。

○賀屋議長 議員の成り手不足、立候補者がとにかく増やしたいということですけども、そのためには当然興味持ってもらいたい。興味を持ってもらうためには、やはり日頃から、要するに市政に対して、あるいは生活に対してもですけども、不満を持ってもらう。いろいろな不満を持ってもらうと、文句も言いつうなる。文句を言いつうなれば、どこへ文句言うていくかというのは、行政も文句を言うのが一番見やすいので、文句言うてくる。そういう単純な人間の構造といいますか、そういう不満をぶつけるところが一つは議会の場ではないかなということで、皆さんが実際にもう不満はないと。十分満足しとる、そんなに言うこともないということで議会に興味持ってもらえないのか、それとも、何ぼ言うても駄目やと。こんな議会に何を言うても解決しやあせんけん、言うだけ無駄だというて諦めて、そういう興味も持たないのか。いろいろ興味持ってもらえない理由はあると思うんですけども、少なくとも議会という、議場にいない皆さんが、例えば自治会の総会であるとか、役員会であるとか、そういうものの延長みたいなものなので、そういうところをひとつ皆さんに理解してもらうために、例えば議場で自治会の総会を、あるいはそういったものを場所を提供して、雰囲気味わってもらおうと。そういう中で、議会と自治会の総会って変わらへんのかということで、議会に対してのハードルを下げることにはできないのかなと。

それとか、以前はあつたと思いますけれども、子供議会ですね。小中学校、高校生を議員として子供議会を開いて、議会とはどういう雰囲気かどうかという仕事をやるのかと。どういうことを言い合うのが議会なのだというようなことを、小さいときから経験を積むことによって、議会に対するいわゆるハードルを下げて関心を持ってもらう。そういう取組が、よその市町もやられとるとは思うんですけども、少なくとも私、議員になってから、子供

議会というのではないみたいなので、そういう形で今から若い人にもっと興味持ってもらうためには、議会の活動、取組の実体験をしてもらうというのも一つの方法ではないかなと。そういう形でいろんな人に開放して、議会のハードルを下げていくということが、一つの関心を持ってもらえる、議員の成り手を増やすということにつながるのではないかなというふうに思います。すぐにそのことで結果が出るかどうかは分かりませんが、一つの方法としてそういうこともいいんじゃないかなというふうに思います。

以上です。

- 網谷委員長 ありがとうございます。長期的にはそういうのも考える必要があるのではないかと考えてございます。一度、何年前にありましたよね。議長の任期のときはない。その前に、私のときに1回あったですね。そういうことで、これも一つの案でございますので、これから議会改革特別委員会の中でも考える必要があるのではないかと考えてございます。

ほかに。まあ長期的にはそうですが、短期的に何か。

原田委員。

- 原田委員 短期的なのか分かりませんが、打開策と議員定数の在り方ということにも一緒くたになっているのかも分かりませんが、やはり定数はまず減らすと。私はずっと1減というふうに言ってるんですけど、1減というの、根拠というか、人口が減ってるということが一つ。それから、じゃあ人口が減ってるからどんどん議員を減らしたらいいのかと言われると、私は、例えば1万8,000人ぐらいに大竹市の人口がなったとしても、やはり13名ぐらいは確保しないとけないというふうに考えてまして、それから逆算して、そろそろ15名にしてもいいんじゃないかと。これは無投票とか無投票じゃないと関係なく、やはり15名にしたほうがいいんじゃないかという考え方から来てますので、無投票になったから1減ということではないんですが、やっぱり無投票だったということも関連して、まず1減、これは人口減少と、それから無投票だということ、それから、この先人口が減っていくということから考えて、ただ、じゃあ14にしたらどうかという意見もあると思うんですけど、そうするとやはり、冒頭にお話ししました、執行部との力関係とか、そういうものであるとか、多様な意見、私はずっと一般質問いろいろ皆さんのを聞いてて、そういう考えもあるのかとか、そういう見方もあるのかとか、やっぱり人数が多いと、それだけやはりたくさん意見が出てきますから、あまり極端に減らすということには反対ですので、まあ打開策になると思うんですが、やはり当面、まず今回は1名削減という方向で考えるというのが私の打開策というか、在り方にもつながると思うんですが、そういう考え方です。

以上です。

- 網谷委員長 どうもありがとうございます。打開策も議員定数の在り方も似てると思いますんですが、ダブってもよろしいかと思しますので、その辺のところもほかに意見があれば。

小中委員。

- 小中委員 打開策ということではないんですけど、若い人に議員の成り手がないというの

は、要するに企業内候補がね、さっきも話ありましたけど、企業内候補が離職して、補選があつて、その企業は応援したり、それするのに二の足を踏むということがあつて、多分ほかの企業も、企業内候補というか、ある程度大企業で、例えば中国電力とかで企業内候補を出す自治体もあるんですけど、そういうのが望めないということで、例えば会社員の若い人がですね、会社員辞めてまでじゃあ立候補するかといったら、そういうふうにならない。今、大体に16名を見てもそんなに、だから、そこにはれっきとしたやっぱり志というのがないと、例えば当然、選挙にはリスクがあるわけだから、30万円の供託金含めてあるわけだから、そのところをいかにうまくやるかというのは非常に難しい問題だと思います。

私の場合は、もうはっきり言って、個人的には、定数がどうであれ、私が出たのは、家族全員反対だったから、さきの公職選挙法違反の例もあるから、あんたらが親戚にも選挙運動は全然やらんでええと。私が自分で自転車でポスター貼って、くじなんか引かんでも、一番最後に行ったら一番最後にポスター貼られるんやから、一番最初と一番最後が一番目立つんだというんで、全部1人でやったから、まあはっきり言って、30万円プラスポスター代プラスたすきで済んだから、50万円以内で済みましたけど、まあ次もそのつもりですけど。私にはこの大竹市、今までの大竹市政でいいのかという非常に疑問がありましたんで、立候補して、別に落ちたら落ちたでしょうがない。ただ、法定得票数というか、供託金没収点に達する票が取れるかどうか、それだけをまあ気にはしてはしておりましたがね。基本的にはやっぱり志ですからね。若い人にそれだけの志があるかどうかという話なんで、まあ何か議員報酬を多くしたりとか、そういうんで立候補者が増えるようには私には思えないと思うので、それ以外の何らかの打開策を探る必要があるのではないかと私は思っております。

○網谷委員長 どうもありがとうございます。議員定数の在り方についての考え、また、無投票を回避する打開策ということで、なかなかテーマとして難しいんですがね。同じような意味もあるんですが、まあいろんな各委員の皆さんの方にはお答えいただきましたところでございます。

その他に、その他の意見としてもかなりいろんな意見がございましたのでね、今回のアンケートの中で。その他の意見の中で皆さんが気づいたこと、また、各16名の全議員のアンケートの答えの中で、これはどうかな、これはいいなとかいう意見があれば、総合的な意見になろうかと思うんですが、発言していただければと思います。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、その他の項目についてはではないその他の意見なんですが、16名のアンケートがあつて、北地委員がまとめられたものがあつて、今、大きい項目、それぞれ委員が発言しましたが、どうしても自分の意見になると思うんですね。せっかく委員以外の意見もアンケートにありますし、僕がイメージしてたのは、1項目ごとに全体的にこういう意見があると。こういう意見についてはどう思うかというのを一個一個話、議論を進めていって、自分なりの解釈をして、委員会の答えをつくり上げていくイメージがあったので、委員以外の方のアンケートもしっかり見ながらじゃないと、結局アンケートを

取った意味が薄れるかなという気はしました。

○網谷委員長 ありがとうございます。要するに全16名の議員の皆さんのアンケートの項目を一つずつ協議したいという意味のことですかね。

小田上委員。

○小田上委員 そうですね、16個全部じゃないにしても、こんな意見があるけど、これについてはどうだろうかというような話ができただけで、今、自分の意見を言って、深まっていくような深まってないような、進んでいくような進んでないような気がして、有効活用して、取られる当初言われてたので、それができればいいかなと思いました。

○網谷委員長 分かりました。ありがとうございます。今の小田上委員の意見ですが、今までは皆さんの、16名の皆さんの議員の皆さんのアンケートの中の総体的な意見を皆さん発言していただいたんですが、これからは今、小田上委員が言われましたように、一つ一つ、無記名ですのでね。誰の意見というのは分かりませんが、番号で示すぐらいはできますので、それについての意見を提示しての皆さんの意見という、今、提案がございました。そのようなことでよろしいでしょうか。16名の意見がございましたのでね。それに一つ一つ、1番なら1番の方の意見を項目に上げて議論するという方法になろうかと思えますので、そういう、違いますか、小田上委員。

小田上委員、どうぞ。

○小田上委員 あくまで北地委員が個人的にという形で作られてるものですけど、例えばこれを参考にするとすればですよ、じゃあこの因果関係のところこういう意見が多いよねと。これについては皆さんどう思うかと。残りこういう意見があるがどう思うかとかという進め方のほうがいいんじゃないかと思っただけで、今すぐに、今からすぐにこれをしてくれっていうわけではなくて、次回以降でもいいですし、そういうやり方のほうがアンケートが生きるんじゃないかなというだけです。

○網谷委員長 皆さんの御意見も伯仲しておりますが、時間も1時間以上たちましたので、今、コロナのかなり厳しい状態になっておりまして、10分間ほど空気換気をさせていただきます。お願いします。

11時09分休憩

11時20分再開

○網谷委員長 ここまでは意見を頂いたんですが、ほかにあります。なければ次に進みたいんですが。よろしいですね。

次に、今回、先ほどの北地委員のまとめですよ。議員定数議員アンケート、北地委員が一応個人でまとめてくれたので、大変よくまとまると思いますが、これ委員会として認めてよろしいでしょうかね、これ。

○小中委員 委員長がまとめたほうがいいんじゃない。

別にいかんちゅうていう、あえて言う必要もないです。ボランティアでやってくれたんから、御苦労さまでしたというしか言えないんじゃないかな。

○網谷委員長 一応これが承認されると、これをある程度の参考資料にさせていただきたいのでね。これからいろいろな議論の中で。一応。

北地委員。

○北地委員 これはあくまで個人的に作ったものであれなんですけど、もし資料として使われるんなら、皆さん意見も入れたもので資料を作ってもらいたいと。修正があろう思うんですよ、中にはね。私はこういうのがこれとは違いますよと。ほかにもあろうかと思うんで、そういうところを入れたもので資料として使われるんなら、私はどうぞ提供します。これ個人的見解ですから。

○網谷委員長 一応個人的見解でありまして、一応タブレットにも載せた以上はね。

○小中委員 だから、要するに要約として要するに間違いがあれば、これは間違ってますよと、いわゆる書いた人が言えばええだけの話であって、そういうことじゃないですよ。別にそんな、単にあの意見を要約したんだとして、ぱっと見て、みんなが見て、これ絶対おかしいやん、全然言っていないことをこういうふうにしたらあかんのやっというのがない限りは、別にええん違います、もう。

○網谷委員長 サイドボックス、載せておりますので、確認した上で、おかしいんじゃないかということがあれば知らせていただければと思います。まあ一応参考資料でございますので、資料として掲載させていただきます。そういうことでよろしく願いいたします。

それから、先ほど議長の発言の中で、いろんなことでの意見が出ておりますのでね、集約せないけんのじゃないかということで、集約方法としてね、どういう方法がええのか、皆さん協議していただいたらと思いますんですが、これ全部今までの16人の方の文章を皆さん見とるとは思います、集約方法というのは、全部全部ずつとのせるわけにはいきませんので、重なった意見もかなりありますのでね。そういう方法もございますので、何か方法があれば、これからもまた何回も協議、委員会持たなければなりませんので、これがかなりのウエートを占める意見になろうかと思っております。

それから、先ほどの小田上委員が言われましたように、まずは16名の意見のアンケートの一つ一つを精査するという意味で、しっかりそれを、深掘りまではいきませんが、それに対しての意見を皆さんに集うということも一つはあろうかと思っておりますので、これは今日のことにはなりません、次回そういうふうにするならするような方向でいかなければなりませんので、そのところの皆さんの意見を聞かせていただきたいと思っております。かなり時間も、16人の意見の、皆さんの意見を踏まえるわけですから、時間もかかるかと思っておりますので、次回そういう方向で。

議長。

○賀屋議長 冒頭にも話をさせてもらいましたけども、この16人のアンケートの書いた本人に直接自由討議という形でお互いの意見を確認し合うという場があればいいんじゃないかなど。議員全員協議会という形ではないんですが、記録は、自由討議ですから、取らないという形で、16人の皆さんで、私はこう思うと、いや、それはどういうことかとか、また、これはこうじゃないんかとか、どういう考えなら分かるよねとかね。いろんな皆さんで直接話す場があれば、ある程度一定の方向性が出やすいんじゃないかなというふうに思うんで、一度はそういう場をつくってもらいたいなと、そういうふうに思っておりますので、次回、できれば16名で自由討議をする時間を設けてもらいたいと思っております。

○網谷委員長 今回の議長の意見に対して何か。なければそういう方向でも。

日域委員。

○日域委員 それは、こうやって皆さん意見出したわけですから、それを聞いてほしいと思う人はね、そういう聞いてあげる機会を設けることはいいと思います。

それ以前にですよね。例えば大竹市特別職報酬等審議会というのはありますよね。あんなような感じですよ。要するに外部にですよ、何か提案というか提言というか、お願いできるようなものってないんですかね。自らのことをね、要するにうちの会社どうもね、調子悪いけんね、従業員を3割減らさないけんのか。どうしようかっていうて、給料が悪ければ辞めますよ。うちの会社給料ええんよってなったらですよ、やっぱり自分がその対象になりたくないですからね。

だから、今、皆さん意見が今回出てますけども、私、申し訳ない、読んでないんやけど、自分がその一員で、自分がそのポストがあって、報酬もあってという中の意見ですからね。これが一般市民とかですよ、例えばほかのまちの議員とかですよ、廿日市市の議員がですよ、大竹市議会の無投票をどう思うかって聞いたら、また色合いの違うものが出てくると思いますけども、皆さん自分がそこにいるわけですから、自分の足元をどうするという話ということでのこの意見ですからね。だから、バイアスがかかってますよね。

だから、やっぱり皆さんというよりも、身内では非常に決めにくいわけですよ。企業の議員が今いなくなりましたが、あの人たち、会社の中じゃ給料を上げていつも騒いでる連中ですよ。その連中がね、市議会に来たらですよ、給料下げようとか言うんですよ。おまえら違うやないかと私いつも思っていましたけども。でも、人間って自分が有利になりたいわけですから、それを前提でいっておるわけですからね。なかなか我々じゃ決め難いものがあるんです。そこのところはやっておかないと、結局変わりませんでしたというのも寂しいなという気がしますがね。でも、書いた人がですよ、自分が何番だということ意見を言うというのは、それは面白いと思いますから、私はぜひやってほしいと思います。

○網谷委員長 小田上委員。

○小田上委員 どういう形で開かれるのかというのが、やるとしてもですね。全員で。議員全員協議会という形でされるのか、それか、よく勉強会みたいな感じで、特に何の協議会ともなく全員で話をするのか、この議会改革特別委員会として残りの8人を招集して、この委員会の中で全員の意見を出すのか、何かやり方によっていろいろ違うのかな、手順も違うし、僕らの望み方も違うのかなと思うので、そこら辺がどうなるのかが、すみません、手順の話ですけど。

○網谷委員長 タイトル名というのか、内容的な進み方というのか、そういう部類になるのかと思いますが、議長、何か考えておるところがあれば。

議長。

○賀屋議長 あまり負担にならないように、つまり、記録に残して硬くならないような、そういう自由討議ができる場面で意見を戦わせたいということなので、この委員会という形でやるんじゃないしに、別の形で16人が自由討議ができるという。さっきありました勉強会

でもいいと思うんですけども、要するに記録に残して、誰がどう言うたとか、後から嫌な思いをされるというんでなしに、皆さんが自由に意見が戦えるような場面を、場所をつくっていけばいいんじゃないかなというふうに思います。

要するにこの16名の意見というのは、この8人だけで集約するという形になると、どうしてもこの場面で委員でない方の声が届いてませんので、アンケートとしては出てきてますけども、しっかりした本心といいますか、そういう中身も確認をする必要もあると思うので、そういう意味で、1回は16名でしっかり話をすることのほうの結果として早いんじゃないかなというふうに思いますので、そういう形で進めたらいいんじゃないかと思えます。

○網谷委員長 ありがとうございます。

小田上委員。

○小田上委員 記録云々というのは多分、煩雑になるところもあるでしょうから、自由討議のやり方というのは前回の議会改革特別委員会である程度決まりました。何ですかね、16人全員の意見が分かるようにというところも含めてアンケートを提案してもらいました、今回ですね。じゃあこの8人で決めるにはというのは、気持ち的にはすごく分かるんですね。分かるけど、それだと、毎回定例会の僕そうなんですけど、生活環境委員会の議案にああと思うところがある場合は会派でお願いしてたりとかあるので、何かまとめる場が全く別というのは、議会改革特別委員としての責務というところが、そういうことをしてしまうと薄まってしまうというか、のかなと思いますんで、自由討議のやり方で、まず、議会改革特別委員会を開催して、参考人なのかどうか、言葉は分からないですけど、ほかの残り8人を招致して、自由討議は休憩中に行われるので、今から意見を交わしたいと思うという、自由討議をやるというところで、一応議会改革特別委員会は開催しますと。ほかのメンバーを招致して休憩中に自由討議をしますというところであれば、主催しているのは議会改革特別委員会。議会改革特別委員会の休憩中にそういう話合いが行われて、ある程度まとまったものがあればですね、また会を再開して、まとめていくというのが、改革の中で定数の話をしつつ、全員の意見も入るのかなというのは思いました。

○網谷委員長 ありがとうございます。その辺の進行方法はまた議長、我々正副、もちろん事務局と相談して、やらせていただきます。

そういうようなことで、今、議長が提案されました議員全員協議会ではないんですが、こういう方向で一度やってみるというのも確かにいいことではあるかと思えますので、皆さんよろしいですかね。

原田委員。

○原田委員 すみません、小田上委員とほぼ同意見なんですけど、やっぱりこの議会改革特別委員会という中でこの問題を討議しましょうということが始まっているわけですから、やはりこの中で、先ほど小田上委員が提案されたようなことでやるのが一番いいのかなと。議員全員協議会とかではなくて、この中で討議していくのがよろしいのかなというふうに思います。

それと、もう一つお聞きしたいのは、無記名でアンケート取ったんですけど、皆さんで

いろいろ議論していくと、誰が誰の意見か分かるというか、結局、無記名だった意味がなくなるような気もするんですけど、それは別に特にこだわりなく思っと思ってよろしいんでしょうか。

○網谷委員長 私個人的な意見としては、この前のアンケート、16名のアンケートにも含めてあったんですがね、皆さんのこれが実行されとなれば、おのずと誰の意見、誰の意見というのが分かるので、無記名が反対者もおられましたので、かえっていいのかなというような感じにもなるんですが、その辺のところを含めて。私はあまり差し支えないののではないかと、個人的にはそう思うんですが。

○日域委員 それ以前に、これが、何番が誰ということを知ってる議員は誰なんですかね。議員は知らないんですか。事務局しか知らない。

○網谷委員長 本人しか知らないでしょう。

○日域委員 事務局は知っとるよね、もちろん。議長は知らない。私は3番らしいんですよ。よう分からんけど、そんな気がするけど、でも分かったほうがいいですよ。本当はね。一応まとめですからね。

○網谷委員長 まあ今の日域委員の意見にもございましたように、無記名でもありましたが、まあそれは、わしは無記名でやったんじゃけ一切明かさんという人も中にはおるかも分かりません。それはそれとして対応すればいいんじゃないかと思いますので、あまりこだわる必要はないかと私自身は思います。

そういうことで、今の議長の提案の具体的な方法、やり方はこれから詰めていかなければなりませんが、一応方向性でよろしいでしょうかね。これよろしいということで、原田委員、一応了承することになりましたので、よろしいですか。

そういうことで、実行するとすれば、早い時期でないですね。次回の、私とすれば次回の委員会に実行していきたいのですが、よろしいでしょうかね。その前に日にちを決めないけんのですが。

次回の委員会の、局長、議長のスケジュールはどうなつとります。2月の7の週ぐらいで。

局長。

○三上議会事務局 7の週の午前中ということよろしいですか。

○網谷委員長 できれば午前中がよろしいですかね。

○三上議会事務局 7日は広報広聴特別委員会が入っております。今、コロナ禍でこういう状況ですので、どうなるか分かりませんが、2月8日は全国市議会議長会の基地協議会が入っております。2月9日は会社の新年の挨拶が11時から入っております。

以上です。

○網谷委員長 10日だけ空いておるといことですね。その週は。

○三上議会事務局 そうですね。

○網谷委員長 じゃあ、早いほうがよろしいので、10日は皆さんどうでしょうか。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、個人的な用を入れてます。広報広聴特別委員会が7日にあるの

で、ぜひ同じ日に開催いただけないでしょうか。広報広聴特別委員会を午後からに変えられるかどうか、副委員長と聞いてみますし、そのほうがよければあれですし。

- 網谷委員長 広報広聴特別委員会は朝ですかね。
- 小田上委員 朝10時から予定してます。副委員長と協議しますけど。
- 網谷委員長 昼までに終わりますか。
- 小田上委員 昼までには終わります。
- 網谷委員長 午後ならいいわけ。
- 小田上委員 午後であれば、昼までには終わります。
- 網谷委員長 何日言われましたかね。
- 小田上委員 7日月曜日。すみません、個人的な用事で申し訳ないんですが。
- 網谷委員長 皆さん、午後はどうでしょう。7日の午後。よろしいです。議長、よろしいですか。

そういうことで、午後の、事務局、1時半がよろしいですかね。1時ですか。1時半がいいんですか。

局長。

- 三上議会議務局長 1時でも1時半でも結構です。
 次回の開催は勉強会ということですか。議会改革特別委員会ということ。
- 網谷委員長 今、その辺のところは後、正副委員長、議長と。
- 三上議会議務局長 先ほど言われた自由討議なんですけど、自由討議の申合せ事項は常任委員会ということになってますので、特別委員会では想定はされておりませんので、そこら辺は御了承ください。
- 網谷委員長 そこら辺の名目も考えていきたいと思います。

そういうことで、2月7日月曜日13時、お願いします。

これからいろいろ名目は考えていきたいと思いますが、それまでにいろんな皆さんの意見の、考えていただいて、意義ある、議員全員協議会になるかどうか分かりませんが、16名で、大変大きな定数の問題でございますので、しっかり皆さんの意見を受けていけたらと思います。

以上でございます。

日程第2、その他でございますが、何かございますかね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 網谷委員長 ないようですね。
 それでは、今回はこれで終わってもよろしいですかね。
 それでは、以上で議会改革特別委員会を終了させていただきます。

11時43分 閉会